

スクリーニングツールキット

～ 子どもの課題の早期発見・支援につなぐこと、～
～ 学校におけるチーム体制確立のために



作成 大阪府立大学 山野則子研究室

令和3年3月

はじめに

これまでにスクリーニング実施のための資料として、文部科学省(2020)は『スクリーニング活用ガイド:表面化しにくい児童虐待、いじめ、経済的問題の早期発見のために』や『スクリーニング活用ガイド(概要版)』(作成山野研究室)を提示しています。具体的に現場でスクリーニングを実施するために「何を準備すればいいか」「どう進めればいいか」といった質問を受けて、一連の流れとそのツールを示す目的で、本キットを作成しました。

本冊子の構成

1. スクリーニングとは
2. スクリーニングの効果
3. スクリーニング実施の流れ
4. スクリーニングをスムーズに実行するためのツール

①スクリーニング研修・会議の進め方例、②要項・条例など

③スクリーニング研修資料、④アンケート例

用意するもの



■ 『スクリーニング活用ガイド』(文部科学省 2020)

■ 『スクリーニング活用ガイド』(山野則子研究室 2019)

■ 『スクリーニングスタートマニュアル』(山野研究室 2020)

■ 『スクリーニング活用ビデオ:支援の見える化・児童生徒理解のために』(DVD) ...実際のようす

■ 『つなぎびと2019』

...全体像の文章版

...全体像の図解

...学校で実施する段取り

...実際の効果例



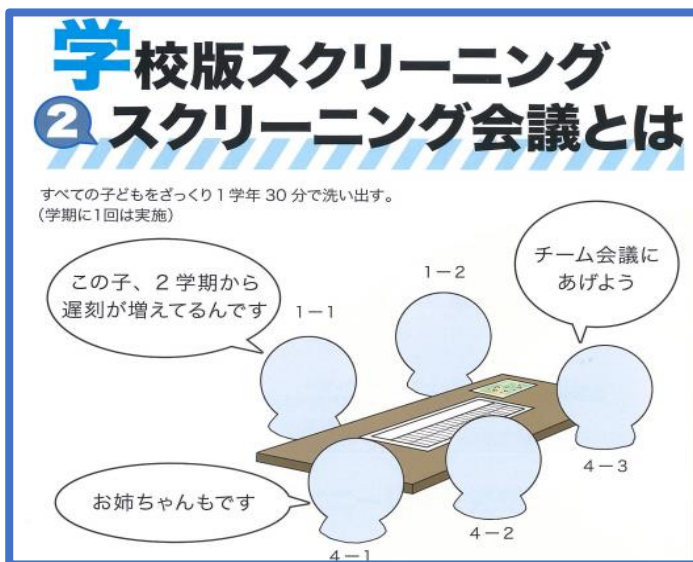
1. スクリーニングとは

本キットでは、スクリーニングを「子どもの最善の利益のために、すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を**適切な支援につなぐための迅速な識別**」であり、つまり「1人で単に子どもの実態をチェックすることではなく、チェックした**データに基づき複数人による議論**から実行可能な**暫定的な方向性を決定すること**」(山野・石田・山下2020)と考えます。

※上記後半の赤字2点は、2020年度調査で明確になりました。本キットp.3参照。

スクリーニングの目的は、児童虐待、いじめ、貧困の問題など表面化しにくい問題の早期発見、早期対応であり、習慣的に行うことで、教員にとっては**児童生徒理解**が深まり、抱え込みの解消、**チーム力の向上**につながります。文部科学省では、本研究室で取り組んできた自治体との取り組みに着目し、全国に広めるべく通知文を令和2年3月に出しました。

山野則子・石田まり・山下義剛「学齢期における子どもの課題スクリーニングの可能性チーム学校を機能させるツールとして」社会問題研究,大阪府立大学人間社会システム科学研究科人間社会学専攻社会福祉分野, 68, (2020), P1-13.



スクリーニング会議は、上位1～5%の福祉機関等に対応されているリスクの高い子どもをピックアップすることではなく、支援が十分に行き届いていない経済的に厳しい家庭に目を向けるため就学援助割合程度(**30%程度**)をピックアップし**対応を決めること**



重症化を防ぐ

専門家が機能する



SCやSSWにつながる、地域につながる、ルートになる！



スクリーニング会議でピックアップされた案件をチーム会議で議論していきます。



教師の負担軽減、組織的対応となる！

2. スクリーニングの効果(実施からわかること)

表1. チーム会議にあげた人数の割合

	2018年度	2020年度	
	A市(先進)	B市	C市(一般的)
総数	322	718	621
チーム会議にあげた人数	120	55	3
割合	37.3%	7.7%	0.5%
遅刻・早退の好転率	64.3%	19.0%	

表2. 1つでもチェックのついた人数と割合

	2018年度	2020年度	
	A市(先進)	B市	C市(一般的)
総数	322	710	621
1つでもチェックのついた人数	232	398	424
割合	72.0%	56.1%	68.3%

取り組みの

効果

(A市の事例)



スクリーニングチェックはどれも変わりません。しかしシートから、「**チーム会議にあげる**」項目に**チェック**をつける＝**拾い上げている**＝**30%**に近づけることができていほど課題(遅刻や保健室の来室など)の軽減や好転となっています。



方向性C(児相紹介)ではなく、BやA(地域や教職員)を活用することでスクリーニング実施校において、不登校の人数が3分の1に！

□ 個々の長欠日数の変化 (関西のある小学校)

	2016年度	2017年度
6年男児	欠席 105 日	→ 欠席 2 日
2年男児	欠席 92 日	→ 欠席 3 日
5年男児	欠席 46 日	→ 欠席 13 日
4年女児	欠席 191 日	→ 欠席 98 日
4年男児	出席 26 日	→ 出席 48 日

□ 連続 7 日の長欠報告書の数

2016 年度 … 年間 92 枚
(1 か月あたり 8.36 枚)

2017 年度 … 年間 30 枚
(1 か月あたり 2.73 枚)



山野剛子教諭

な議論が展開され、個人では見えなかった子どもの姿への気づきや発見が促されることだ。

たとえば、子どもたちの様子について、次のような会話が出る。

「お母さん、いつもいい目をしてるよ」

長欠児童が激減

スクリーニングを活用した「チーム学校」の取り組みで

関西のある小学校で、1 年間に 30 日以上学校を休む「長期欠席児童」が

2016 年度に 105 日間欠席した小学 6 年の男児は、2017 年度にわずか 2

『つなぎびと2019』

※各年の「つなぎびと」は山野研究室ホームページにあります。



2. スクリーニングの効果(調査からわかること)

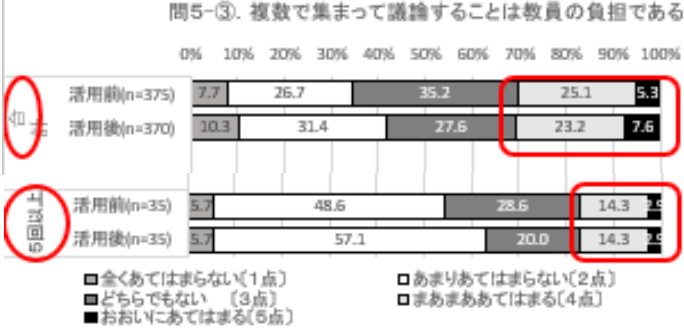
＜スクリーニングYOSS活用前後の比較＞

◇職種別に見た、チーム活動は他の人の意見を聞くことができるので自分の知識も増える程度



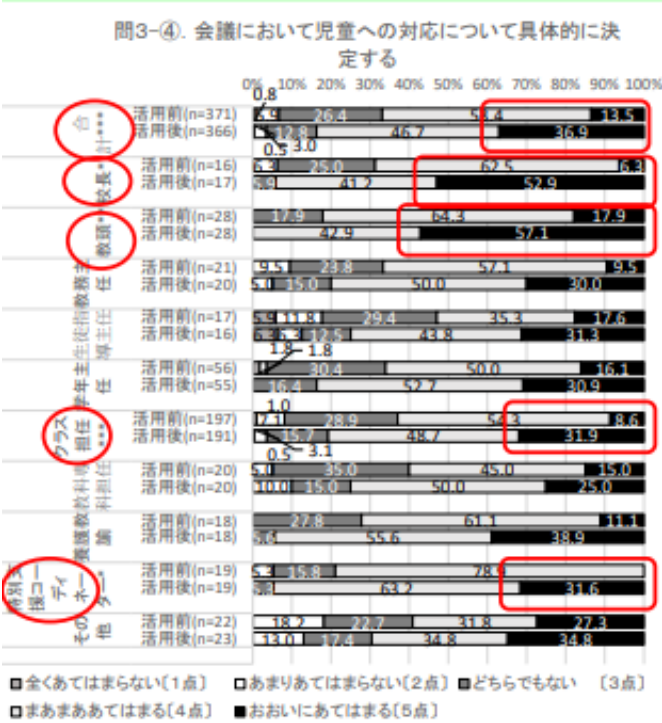
チーム力UP！

◇校内チーム会議参加回数別に見た、複数で集まって議論することは教員の負担である程度



★
決してスクリーニング実施による負担が増えているわけではない！

◇職種別に見た、職種別に見た、会議において児童への対応について具体的に決定する程度



対応の簡単な方向性の決定ができていなかったが、可能に！



文科省(2021)「令和2年度スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」報告書と概要

3. スクリーニング実施の流れ

① スクリーニング実施の準備 (教育委員会)

<教育委員会>

- 自治体としてスクリーニングの実施を決定
- 全小中学校に伝える。
- 小中学校対象に研修(スクリーニングの意義や方法について)

② スクリーニング実施の準備 (学校)

<学校>

- 校内でのスクリーニング会議とチーム会議の担当者、参加メンバー、実施日を決定(校務分掌に位置付け)
- 校内研修
※右にある「スクリーニング年間スケジュール」参照

③ スクリーニング会議の実施 (当日)

④ 校内チーム会議の実施

データに基づく結果から1年を通じて
児童生徒の変化を確認！

スクリーニング年間スケジュール

内容	時期	詳細
導入	前年度末～4月初旬	年間3回のスクリーニングの日程を決定し、予定に入れておく ☐ 担当を明確化し校務分掌に組み込んでおく (子ども理解委員会など委員会で運営することが望ましい) ☐ 学年会議などの予定に入れておく ☐ SSWの出動日や巡回日程を把握し決定する ☐ シートの入力期限を決定する ☐ PCの管理や入力の方法を確認する

研修	4月中旬～5月	スクリーニングに関する研修を実施する ☐ 実施の意義を理解する ☐ 手順を理解する ☐ チェック基準について確認する
----	---------	--

内容	1回目	2回目	3回目	詳細
スクリーニングシートへの記入	5～6月	9～10月	1～2月	シートの「現状」部分を個々の児童・生徒について入力する ☐ シートに記載の留意事項を確認し入力する ☐ 期間内に順次持ち回りでデータを入力する ☐ 「地域担当」は地域担当教員や教頭、SSWが地域人材から聞き取った情報をもとに記入する ☐ 学校独自に必要な項目は各カテゴリーのその他欄を活用する ☐ 特記事項等は③その他・備考欄を活用する ☐ 新年度就学児や転入児童等については引き継ぎ資料を反映させる

内容	1回目	2回目	3回目	詳細
スクリーニング会議	6～7月	10～11月 ※年2回実施も可	2～3月	校内チーム会議における児童・生徒を決める ☐ 学年団や低・中・高学年等小集団で時間を設定して実施する (1学年約30分程度で終える) ☐ シート名簿に沿って上段から順に、気になる日ごろの様子について共有する ☐ 合計6ポイント以上をめやすとして、児童・生徒を校内チーム会議の対象にあげる ☐ 授業改善等、まずは校内体制で対応できるかどうか確認したうえで校内チーム会議におけることを検討する ☐ 合計6ポイント未満であっても気になることがあれば校内チーム会議対象にあげる 支援策の検討を行う ☐ 必要な支援についてA～C(左図)を決定し記入する (暫定でも決定しておく) ☐ 情報共有するだけでなく、次の手立てとなる方向性を意識してA～C(左図)を記入する ☐ 協議の中で出た内容はワンポイントとしてまとめて簡潔に記しておく ☐ 校内チーム会議における児童・生徒を集計する ☐ 3回目は「3回目～1回目」でデータを見ることで児童の変化を確認し何が良かったのか、うまくいっていない場合は支援(A～C)内容変更等を簡単に検討する



校内チーム会議	7～8月	11～12月 ※年2回実施も可	2～3月	学校教職員(生徒指導、特別支援、養護教諭、SSW、SCなど)支援に必要な職種の参集により校内チーム会議を実施する ☐ 検討対象児童一人あたり5～10分以内でスクリーニング会議で出した方向性に基づき検討を行う ☐ スクリーニング会議で決めた対象児童・生徒の状況・方向性、そしてその後の取り組み状況を中心に簡潔な説明を行う ☐ さらに深く、具体的に動けるよう地域や行政で支援を拡大していける可能性を検討する ☐ 協議の結果を具体的に「支援の実際」のA～C個人欄に記入しながら進める ☐ 効果がなかった支援については「支援の実際」欄に×をつける ☐ 校内チーム会議は、1回の会議が2時間以内となるよう工夫をする(各学年〇人以内に絞る、チーム会議を2回に分ける等) ☐ ケース会議を行う必要があるかどうか決める。
---------	------	--------------------	------	--

※校内チーム会議がケース会議となる場合もある

※スクリーニング会議であがった児童・生徒で緊急性が高い場合はすみやかに、より個別となるケース会議を行う。

4. スムーズに実行するために①:スクリーニング研修・会議の進め方の例

ここでは、参考資料としてご活用いただくためのサンプル資料を提示します。現場に合わせながら、随時、修正して資料を作成してください。

スクリーニング会議研修次第 ①【2時間コース】

【〇市教育委員会研修会／△小学校スクリーニング会議研修会次第】

日時 2021年XX月XX日(XX曜日)15:00～17:00(1時間半でも可能)

会場 〇△センター

当日の流れ

- ・ 25分 スクリーニングの意義などのレクチャー
- ・ 5分 ワークの説明
- ・ 1時間 グループワーク(30分で交代、2学年ごと)

※1学年2クラスなら低学年、中学年、高学年でテーブルを分けて3グループで実施。1クラス15分。2学年4クラス分1時間。

- ・ 20分 全体シェア
- ・ 10分 まとめ

★ 2回目以降はグループワークで差のワークを行う。

- ◆ 2学期:スクリーニングの確認、これまでに決めた対応がどうだったか、確認しながら議論していく。
- ◆ 3学期-1学期、あるいは2学期-1学期、3学期-2学期など、差を見てどうだったか、チェックが減ったか、何をして減ったかなどを確認、意見交換する。

★ポイント:学年ごとにばらばらで実施したとしても必ず全体シェアをする。
そうすることで他の学年の工夫が共有できる。

スクリーニング会議研修次第 ②

【〇△□小学校スクリーニング会議研修会次第】

日時 2021年XX月XX日(XX曜日)15:10～16:30

会場 〇△センター

当日の流れ

- ・ 15:10～15:15 担当者開始の挨拶(5分)
- ・ 15:15～15:35 DVD視聴
 - ①スクリーニングについてとその準備まで
 - ③スクリーニング会議1回目SSWerいない場合～④校内チーム会議
 - ⑥スクリーニング会議SSWerいる場合(およそ20分間)
- ・ 15:35～15:40 全体に向けた説明(SVr〇△氏:5分程度)
『スクリーニング活用ガイド』『つなぎびと』を活用し
準備したPPTを使ってスクリーニングの意義やチーム学校等の説明
事前に担当者から出されていた質問への回答、用語の説明を行う。
- ・ 15:40～15:55 5年生1クラスの会議(6人+SSWer)SV〇△氏助言①(15分)
- ・ 15:50～16:05 5年生1クラス(3年生1クラス)SVr〇△氏助言②(15分)
- ・ 16:05～16:15 全員で共有の時間(参加者2名と参観者2名に発言してもらう:10分)
- ・ 16:15～16:20 講評(SVr〇△氏助言 5分)
- ・ 16:20 終了予定

終了後、SSWerとの意見交換(スクリーニング会議の意義など:SVr〇△氏)

【使用する資料】

スクリーニング活用ガイド(文部科学省 2020)

スクリーニング活用ガイド:支援の見える化・児童生徒理解のために(大阪府立大学山野則子研究室 2019)

スクリーニングスタートマニュアル

スクリーニングDVD

4. スムーズに実行するために②:要項・条例など

スクリーニングを実施するにあたり「教育委員会」や「学校」でしっかり位置付けて行っている自治体があります。**教育委員会指導主事や担当者が変わっても実行し続けられる**ようにするものです。スクリーニングの規定を策定することで、スクリーニング実施を明確化させ、効果的に実施することができます。

教育委員会レベル

『学校版スクリーニング実施要項』(抜粋)

先駆的な
取り組みの事例!

3. 方 法

(1)実施主体

福祉係、学校、〇〇町教育委員会

(2)対象者

〇〇小学校全児童及び〇〇中学校全生徒

(3)実施方法

○児童・生徒等の状況の把握

全ての児童・生徒等の課題の有無や現況等について記載するスクリーニングシートを作成する。その際の、事務処理・会議日の設定、参加者への連絡は学校の担当部署、児童生徒支援加配、生活指導担当者等で行う。

スクリーニングシートは原則として、学年単位で年3回作成し、児童・生徒等の最新の現況を把握する。また、スクリーニングにより緊急に支援が必要であることが明らかとなった場合は、要保護児童対策地域協議会等と連携し、適切な支援につなぐ。

○スクリーニング会議

スクリーニング会議は、スクリーニングシートを活用し、要支援者等を対象校内で共有・把握する目的で実施する。児童・生徒等の人数や状況に応じて、複数学年で実施する場合もある。

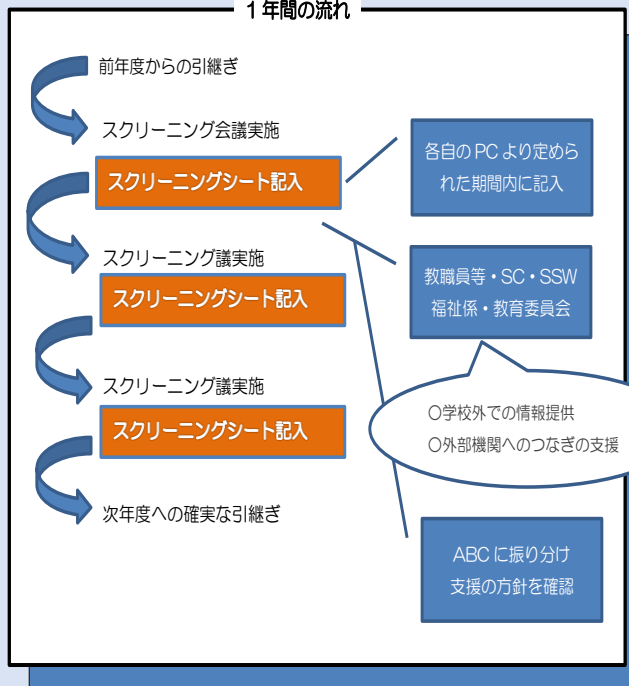
○構成員

スクリーニング会議については、対象学年の管理職・教諭・養護教諭など、児童・生徒等に関わる教職員等、SC・SSW・福祉係・教育委員会で構成する。

○役割

全児童・生徒等のスクリーニングシートを教職員で情報共有するとともに、福祉係と連携した支援が必要であると判断した要支援者等については速やかに福祉係等の外部機関と連携し、保健福祉分野の支援制度、地域資源などにおける身近な支援につなげるためのアセスメントに寄与する。

1年間の流れ



4 経営の具体策

(2) 生徒が自ら自他の良さを見つけながら人間関係形成力を育む学校

1. いじめ対策委員会との年間計画に基づき、いじめアンケートを年5回、いじめ防止の授業を学期1回、校内研修を年3回実施し、法令上のいじめも含めて未然防止・早期発見・早期対応を目指す。
2. 不登校生徒への支援を計画的・継続的にチーム学校で取り組む。そのために支援委員会等での**スクリーニングシート活用により暫定的で持続可能な具体的方策を立てて実施する**。
3. 全教育活動を通して思いやりの心の育成を中心とした人権教育を計画的に進める。また、道徳科では考える道徳、議論する道徳の実践により自尊感情を育成し、自らSOSが発信できるようにする。
4. 生徒が自らの人生をデザインする力を身に付けられるようにキャリア形成を支援する。その際、今年度から導入のキャリアパスポートを総合的な学習の時間や学級活動(進路指導)等で生徒に活用させて学年・学校を超えて継続的に取組めるように工夫する。
5. 支援を必要とする生徒については特別支援教育委員会を中心に組織的に対応し、特別支援教育コーディネーターのもとで特別支援教室専門員・巡回指導教員・巡回心理士・学年主任・担任・教科担当・関係機関が連携して支援する。必要に応じて学校として可能な限りの合理的配慮を行う。

たとえば・・・

『個人情報保護条例』 (抜粋)

(利用及び提供の制限)

第8条 実施機関は、個人情報取扱事務の目的以外に保有個人情報(保有特定個人情報を除く。以下この条において同じ。)を、当該実施機関内において利用し、又は当該実施機関以外のものに提供してはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

1. 本人の同意があるとき又は本人に提供するとき。
2. 法令等の規定に基づくとき。
3. 出版、報道等により公にされているとき。
4. 人の生命、身体又は財産の保護のため、緊急かつやむを得ないと認められるとき。
5. **同一実施機関内で利用し、又は他の実施機関に提供する場合で、保有個人情報を利用し、又は提供することが当該実施機関の所掌事務の遂行に必要かつ不可欠のものであり、かつ、当該利用又は提供によって本人又は第三者の権利利益を不当に侵害するおそれがないと認められる。**

『個人情報保護条例施行規則』 (抜粋)

第3条 「実施機関は、条例第8条第1項ただし書の規定により個人情報を目的外に利用し、又は外部に提供しようとするときは、個人情報目的外利用等届出書により、市長に届け出なければならない。」



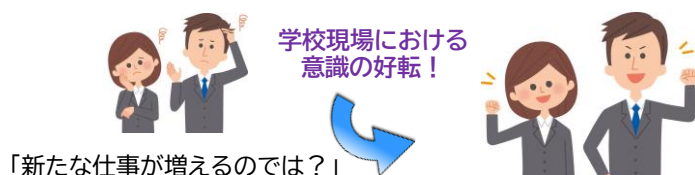
教育と福祉の壁を乗り越えるための 取り組みの事例

- 学校情報は、保有情報を教育委員会から市長部局へ外部提供(目的外利用)する手続きが取られています。
- 教員の本来業務に専念してもらうことが、結果的に子どもの貧困対策につながるという考えから、学校のケース会議に上がらないが、気になる子どもについては、子ども応援部局が担当できる仕組みになっています。



学校と福祉の連携、 法的に確立

学校現場における
意識の好転!



「新たな仕事が増えるのでは?」

「私たちの仕事が支援される」
(負担が増えたわけではなかった…p.4★参照)

学校と福祉ほか部局が役割分担を行いながら、子どもの支援を実施することが可能になり、よりきめ細やかな支援が実現!

4. スムーズに実行するために③:スクリーニング研修資料

スクリーニングの意義と機能

PPT作成:大阪府立大学 スクールソーシャルワーク評価支援研究所
山野則子研究室
主催(使用者の所属・名前):○○○▼▼▼

<http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw-opu/>

1

スクリーニングの目的とメリット

・スクリーニングとは、全員の子どもたちを確認していくことで、リスクの可能性ある子どもを洗い出し適切な対応を簡単に行えるようにすること。

早期対応可能、
予防になる！

- ・方向性を共有する場ができる。
- ・養護教諭、SSWやSCなど違った視点を入れる
- ・簡単な対応方法を得る＝教師の力量アップ
- ・校内にどこでどう判断していくのか、個人でない判断ができ、ルール、判断の流れが明確になる。
- ・地域資源活用 of の正しい理解になる。＝教師を救う

2019.5.9 文科省:学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き:
URL ここに掲載される

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1416474.htm

2

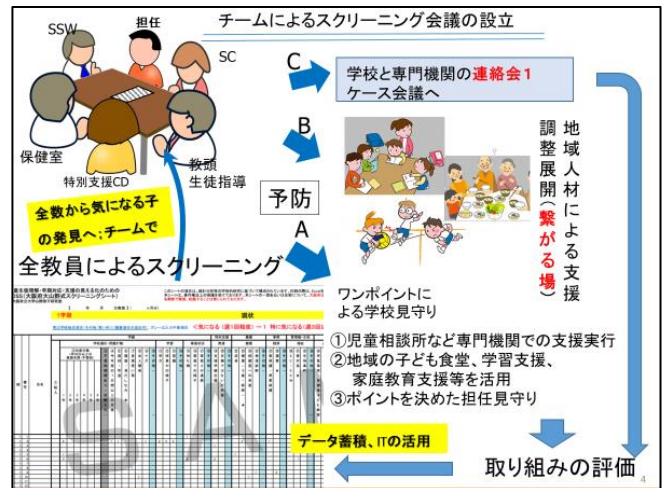
スクリーニングのキーワード

- ・「集団を対象」
- ・「すばやく実施可能な方法」
- ・「無自覚な対象」
- ・「暫定的に識別」
- ・「早期発見」
- ・「簡便であること」

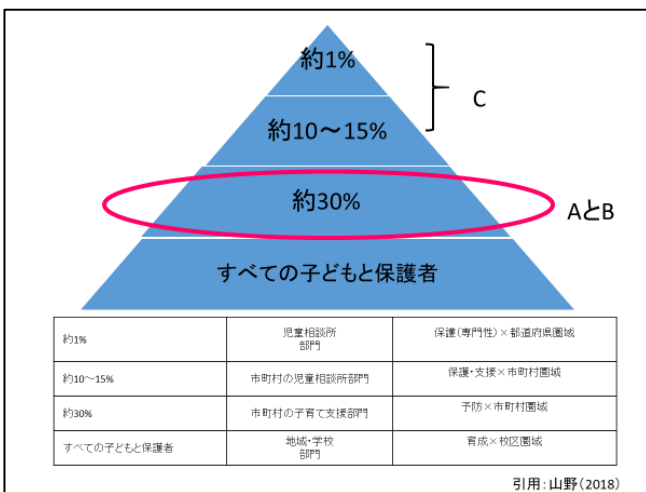
◎アセスメントではない！

◎1クラス15分で行うイメージ=保健所の健診後

3



4



5

「チーム学校」形成の1つの方法

個人の把握:
些細な懸念

教師の同僚性: ちょっとした工夫が参考になる!

組織共有:
些細な対応を明確に
決定: 定例化

その機能をもつツールが
"YOSS(ヨース)"

早期対応つながる

チーム会議に挙げる、ABC方向性を決める: 重要＝YOSS機能

SSWは必須、SSWやSCの機能が明確化される

6

YOSSによるスクリーニングとは



子どもを救う早期発見ツールであり、
教員チームを作り教師の負担軽減するツールである！

7

	2018年度	2020年度	
	A自治体 (先進)	B市	C市(一般的)
総数	322	718	621
チーム会議にあげた人数	120	55	3
割合	37.3%	7.7%	0.5%
遅刻・早退の好転率	64.3%	19.0%	

取り組みの効果



A市

スクリーニング からわかること

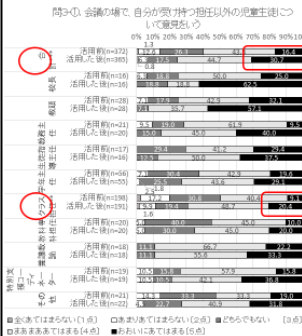


8

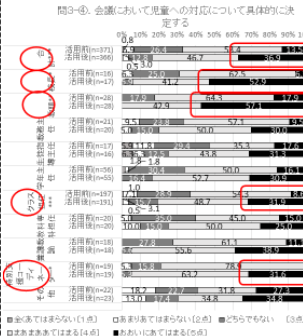
スクリーニング会議による議論UP、決定力UP

◇職種別に見た、会議の場で、自分が受け持
担任以外の児童生徒について意見をいう程度

◇職種別に見た、職種別に見た、会議において
児童への対応について具体的に決定する程度



- 全体では、YOSS活用前と比べ、活用後の方が、より児童生徒について意見を言ったり、児童への対応について具体的に決定したりするようになった。



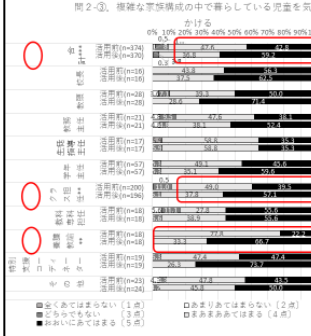
方が、より児童生徒について意見を言った
したりするようになった。

9

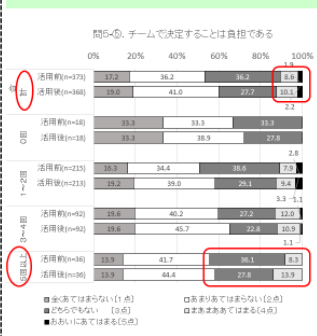
子どもの発見力UP！ スクリーニングの負担感は増加しない！

◇職種別に見た、複雑な家族構成の中で暮らしている児童を気にかける程度

◇スクリーニングチェック実施回数別に見た、チームで決定することは負担である程度



- スクリーニングによって家庭背景を見るようになり、回数に関わらず、YOSSの活用によって複数で集まって議論し決定することに教員の負担は増えたとは言えない。



ようになり、回数に関わらず、YOSSの活用
ことに教員の負担は増えたとは言えない。

10

[illegible]

11

国：文科省がスクリーニングを提示 2020.3.30、2020.5.29

- ・文科省の「児童生徒の教育相談の充実について～学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～(文科省)」にスクリーニングが掲載されている。

- ・2019年度文科省はよりスクリーニングを取り上げ推進。

以下の案内を全国教育委員会に発信された。⇒作成:山野研究室

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302910.htm

このなかの下の方の、

「スクリーニングによる児童虐待、いじめ、経済的問題の早期発見」

・スクリーニング活用ガイド(概要版)(PDF:1.13MB)

2021年度 文科省格別エネルギー自治体支援策

・2021年度：文科省がモデル自治体に予算化
市町村が模範化に向けた協議会開催予定。

内閣府が制度化に向けた審議会開催予定！

右の柱、柱頭、右の柱頭、右の柱頭、右の柱頭

自治体:約20自治体と契約し実施中

○市スクリーニング予算化発表(2021.3.17)

○市スナック 二ツノ子昇化先衣 (2021.2.17)

12

4. スムーズに実行するために④:アンケート例

お名前

役職・ご所属

1. 今回参加してみて、参考になったことや、今後の実践で取り組んでみたいと思われたことについてお聞かせください。
2. スクリーニング実施校でない学校の先生へお聞きします。今回の研修をととして、スクリーニングを取り入れてみたいと思われましたか。はい、いいえのどちらかを丸で囲んでください。また、その理由についてもお聞かせください。

はい 理由：

いいえ 理由：



本キットの作成にあたりご協力いただいた
教育委員会担当者、学校教員、SSW、福祉貧困対策部署の方々に心より感謝申し上げます。



発行元

研究代表者:山野則子

研究員:シランカ実希

連絡先:公立大学法人 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 山野則子研究室
スクールソーシャルワーク評価支援研究所

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

TEL 072-254-9783(直通)

✉ eb-ssw@sw.osakafu-u.ac.jp

HP <http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw-opu/>



本キットは、文部科学省委託いじめ対策・不登校支援等推進事業「スクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査活動」(研究代表者:山野則子)の成果物です。